

令和5年度 桜島火山爆発総合防災訓練【展示訓練】

鹿児島大学 共通教育科目「防災フィールドワーク」受講生 23名

初回授業10月7日から3カ月で仕上げた研究成果をポスター発表

1 桜島3校区住民の「連絡する人」の差異に対応した災害時対応【Aチーム】

山之内 雄大(法文M1年)・小浦 萌華(法文1年)・中原 健志(工3年)・畠 尚史(工1年)・武石 真鈴(医1年)

黒神・東桜島・桜峰の3校区で計55世帯にアンケート調査。「連絡する人」が地理的に異なり、校区のコミュニティの性格が異なることが示唆される。また、70代以降で火山噴火災害対策が疎かになっている。災害時の連絡手段を人・コミュニティごとに検討すべき。

2 桜島高免町における大規模噴火時の高齢者避難の課題【Bチーム】

渡邊 和志(法文3年) 山口 輝(工2年) 山本 航大(工1年) 上野 碧依(理1年) 吉満 鏡華(医1年)

高齢者が多い高免町で6人にアンケート・聞き取り調査。「手助けを消防団に依存」「近所付き合いはない」が半分以上。「休まず歩ける【500m未満】」かつ「バス避難」と答えた住民は、大規模噴火時にバス停まで素早くたどり着けない恐れ。実効性のある「個別避難計画」の策定が急務。

3 桜島大噴火時の避難バスの利用における課題【Cチーム】

正願地 章(理1年)・荒田 太陽(工1年)・松永 滯知(工1年)・土谷 晃輝(工2年)・岩本 禎子(法文3年)

桜島島民計50人にアンケート調査。避難バスが島外避難に「適している」との回答者は30%程度。実際の大噴火時に「自家用車」選択が60%弱。避難手段は、バス停から300m以内なら「バス」「徒歩」、300mより遠いと「自家用車」が多い。移動困難者は、自家用車を使う傾向。

4 桜島古里町における島外避難への備えと意識【Dチーム】

西沢 菜乃(法文3年)・中村 百花(理1年)・吉田 匠太朗(工2年)・若林 蓮(工1年)

古里町住民計17人にアンケート調査。大規模噴火時の持参品に生活用品が少ない。指定避難所等でのトイレ・備蓄の準備を再考。持参品が「持ち出せない」状態と回答半数以上。避難準備に時間を要する人の多数発生が懸念。訓練不参加等、意識が低い人への防災教育を工夫すべき。

5 桜島小池住民のスマートフォン活用実態から災害時情報伝達を考える【Dチーム】

伊東 ちひろ(医1年)・黒木 彩歌(法文3年)・寺園 海人(工2年)・平島 亮哉(工2年)

小池町住民計31人にアンケート調査。スマートフォン保持者55%、高齢になるほど持っていない。「通話、メール」活用可能が100%。持っている人へは、直接の通話連絡が有効。持っていない人、特に高齢者には、知人等による直接対応が有効。桜島の「若者」不足の克服が課題。

謝辞：鹿児島市 SC 防災・災害対策委員会を通じてご依頼した、鹿児島市危機管理課、桜島の各校区コミュニティ協議会の方々、桜島住民の方々に、調査にご協力いただいた。学生共々、こころより感謝申し上げます。

文責：岩船昌起(共通教育センター)・安部幸志(法文学部)